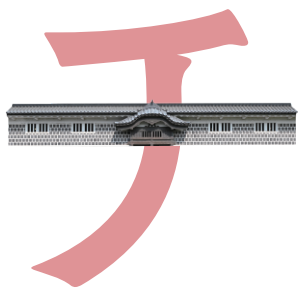


建
築
の
本



はじめに

みなさんは、**ケンチク**（建築）という言葉を知ったことがありますか？みなさんは家でご飯を食べたり、寝たりするでしょう。この家そのものや家をつくるのが**ケンチク**（建築）です。

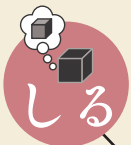
この本は、わたしたちの身の回りにある**ケンチク**（建築）について、写真や絵でわかりやすく教えてくれます。みんなで**ケンチク**を楽しみましょう！

この本の使い方

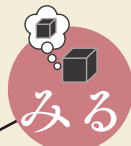
最初のページから読んでも、好きなページから読んでもかまいません。

開いたページには、見開きで【知る】【見る】【考える】が用意してあります。【知る】は、**ケンチク**についての大切なこと、おもしろいことが書いてあります。【見る】は、そのテーマに合った金沢市内の**ケンチク**を紹介しています。ぜひ本物を見に行ってみましょう。【考える】は、そのテーマについての問題が書いてあるので、みなさんが考えたことを自由に書いて、自分だけの本にしてください。

「かなざわ**ケンチク**探検マップ」は、金沢市内の代表的な**ケンチク**の場所を示した地図です。この地図を持って**ケンチク**探検に行きましょう。この地図に書いていない、お気に入りの**ケンチク**を見つけたら、地図に印をつけて数を増やしていってくださいね。



知る



みる



かんがえる



※チカモリ遺跡と大乗寺と金沢海みらい図書館はこの地図には示されていません

ここに記した^{しる}ケンチュク^{い かい}以外にも
たくさんの^{たから}お宝ケンチュクがあるよ！
自分が見つけた^{じ ぶん み}ケンチュク^{ち ず}を地図にマークしよう！

①色ガラスが
美しい神社



②建築家の
親子が設計



③昔の学校の
校舎



④畳屋さんが
作業する町家



⑤木造
3階建ての町家



⑥江戸時代の
町家でひと休み



⑦タイル張りの
洋風建築



⑧昔は
銀行だった



⑨朱色に塗られた
豪華な神社

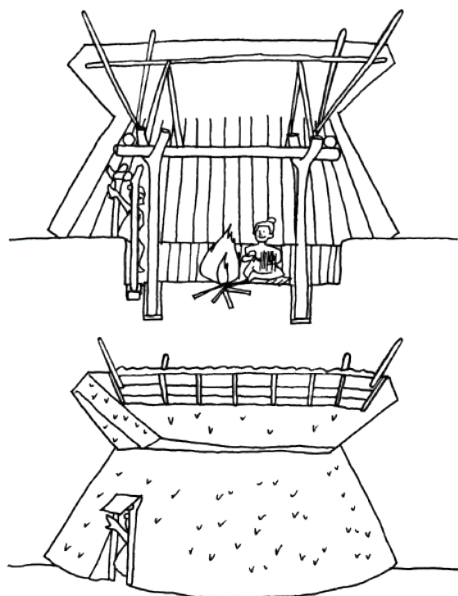


⑩美術館の
庭園にある茶室



気になったことをメモしよう！

ケンチクって 何なの？



しる

ケンチクは雨や風、動物から身を守り、安心して暮らすためにヒトがつくったものです。原始時代、ヒトは食べものを探するために場所を移動して暮らしていました。その頃は自然の洞窟や木を簡単に組んで動物の皮などを張ったテントのようなケンチクで暮らしていたと考えられます。その後、農耕が始まるとひとつの場所で暮らすようになり、道具も進歩して材料の加工ができるようになりました。生活に必要な火を消さないことも大事なことになりました。その頃になると、地面に掘った穴に木材を立てて骨組みをつくり、草や土でおおうケンチクだったと考えられます。やがて、食物を保管したりするために床の高いケンチクもつくられるようになりました。

～かなざわケンチク探検～



みる

チカモリ遺跡は、縄文時代の村の跡です。住居の跡やク
リの大木を半分に分った柱を円形に並べた跡が発見さ
れました。



チカモリ遺跡



チカモリ遺跡

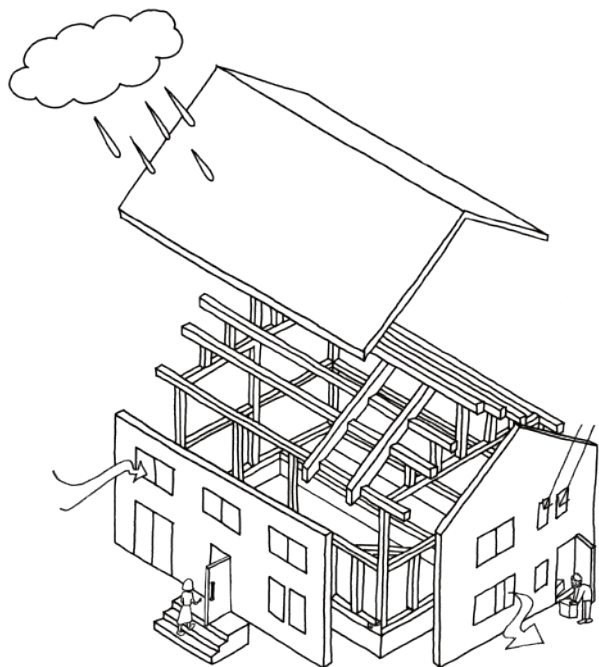
(新保本5-47)



かんがえる

どんな道具で大木を加工したんだろう？

ケンチクは どのようにつくられている？



しる

ケンチクはいくつかの必要な部分が組み合わされてつくられています。まず、雨などを防ぐために**屋根**が必要です。屋根がないものは**ケンチク**とはいえません。次に、**ケンチク**自体を支えるために**柱**や**壁**が必要です。壁には**ケンチク**の中と外を分ける役割もあります。また、ヒトが暮らすためには、光を入れたり、よごれた空気を入れ換えるための**窓**と、ヒトや物が自由に移動するための**出入口**も欠かせません。**ケンチク**をつくる材料にはいろいろなものがありますが、主に使われている材料によって、その**ケンチク**を木造、レンガ造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造といった呼び方をします。



みる

～かなざわケンチク探検～

かなざわ し みん げいじゅつむら **金沢市民芸術村**は、レンガ壁の**ケンチク**で元々は工場の倉庫でした。今では演劇、音楽、美術などの練習場になっています。隣にある**金沢職人大学校**は、**ケンチク**をつくるいろいろな職人さんたち(石工、瓦、左官、造園、大工、畳、建具、板金、表具)が昔ながらの技術を学んでいる学校です。



かなざわしんげいじゅつむら
金沢市民芸術村

だいわまち
(大和町1-1)



かなざわしんげいじゅつむら
金沢職人大学校

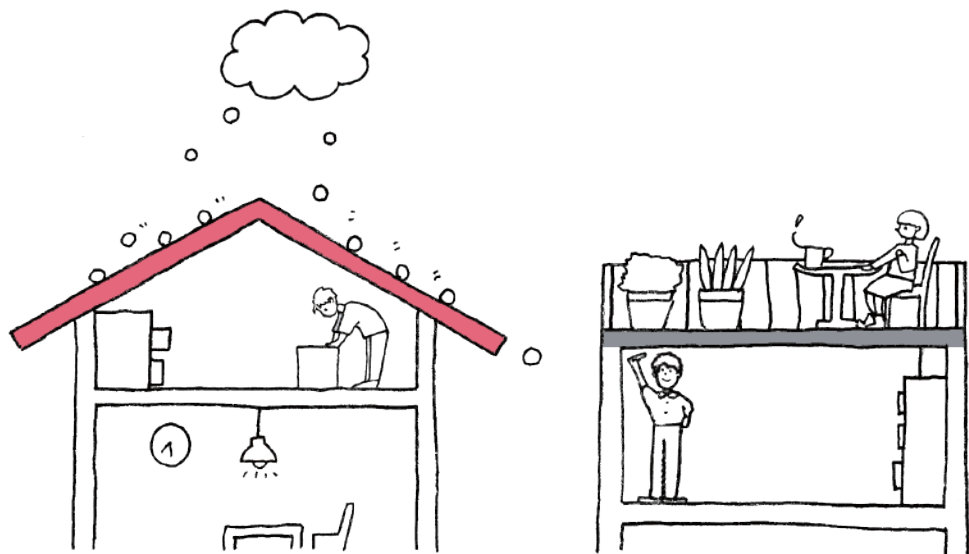
だいわまち
(大和町1-1)



かんがえる

職人さんたちは、**ケンチク**をつくる時
どんな仕事をしているのだろう？

屋根に注目しよう!



ケンチクの屋根にはいろいろなかたちがあります。ほとんどの屋根が斜めになっていると思いますが、これは、屋根に降りかかる雨や雪を自然に流し出すためです。反対に、平らな屋根は、屋根裏が部屋として使いやすく、屋根の上を屋上として使うこともできます。屋根に使われる材料もいろいろで、最も身近なものは瓦だと思います。瓦のほか原始時代から多く使われてきた材料が、稲わら、ススキやヨシなどの草です。このほか、木の皮や板を材料にした屋根もあります。現在は鉄や銅などの金属やスレートと呼ばれるコンクリートなども材料として使われています。

～かなざわケンテック探検～



大乘寺は、江戸時代中ごろに建てられた大きなお寺です。仏殿の屋根はこけらと呼ばれる木の板を何枚も重ねてつくられています。旧森紙店は、まちなかに残る最後の板葺き屋根の町家です。屋根板が風で飛ばされないように石を置いています。昔はほとんどの町家が板葺きでした。



だいじょうじぶつでん
大乘寺仏殿
ながさかまち
(長坂町ル10)



まちなかのいるるな屋根

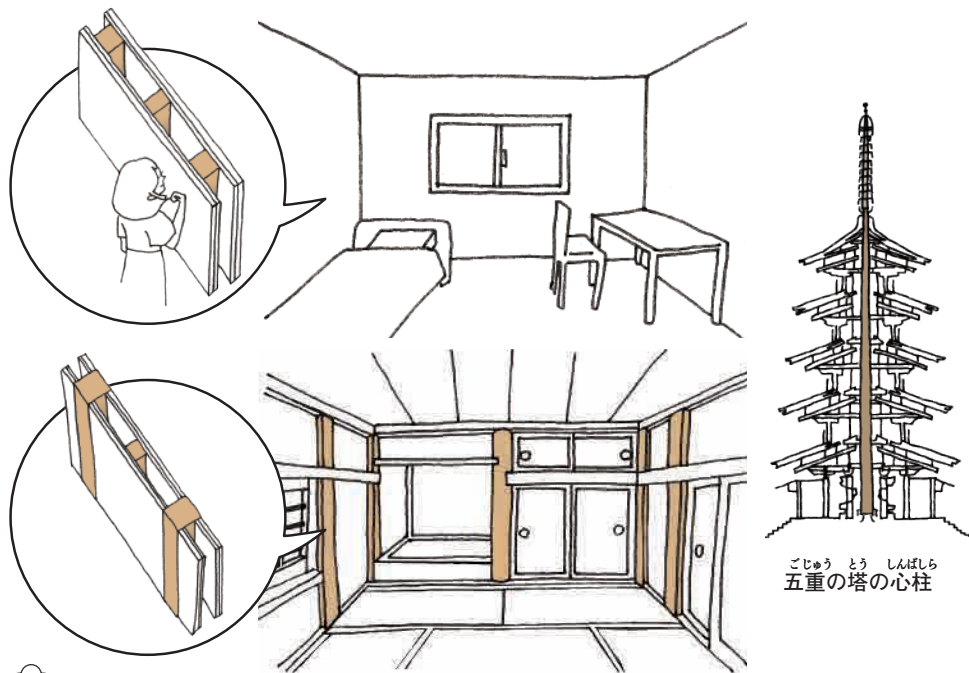


きゅうもりかみでん
旧森紙店
のまち
(野町1-2-34)



自分の家の屋根のかたちはどんなかたち？
材料は何かな？

柱に注目しよう!



ごじゅう とう しんばしら
五重の塔の心柱

柱は1本1本がむきだしで目に見えるものや、壁の中にあって表からは見えないもの、その一部だけがみえているものがあります。**柱**を横に切るとほとんどが四角形か円形をしています。特に太く長い**柱**が必要なときは、何本かの**柱**を組み合わせ、1本の**柱**にしているものもあります。**ケンチク**は多くの**柱**でつくられていますが、中でも一番太くて大きな**柱**を**大黒柱**と呼ぶことがあります。また、お寺で見かける五重の塔の中心には一番上まで伸びる1本の大きな**柱**があり、これを**心柱**と呼びます。**心柱**は地震の揺れで塔が倒れないようにするための重要な役割があり、この仕組みは東京スカイツリーにも使われています。

～かなざわケンチク探検～



本願寺金沢別院は、まちなかにあるお寺です。江戸時代に建てられた大きな本堂には何本もの太い**柱**が使われています。**聖霊病院聖堂**は、昭和の初めに建てられた木造の教会です。内部には漆塗りの**円柱**が立ち並んでいます。



かなざわえきづつみもん はしら
金沢駅鼓門の柱

(木ノ新保町2)



せいりびょういんせいどうないぶ
聖霊病院聖堂内部

ながまち
(長町1-5-30)



ほんがんじかなざわべついんほんどう
本願寺金沢別院本堂

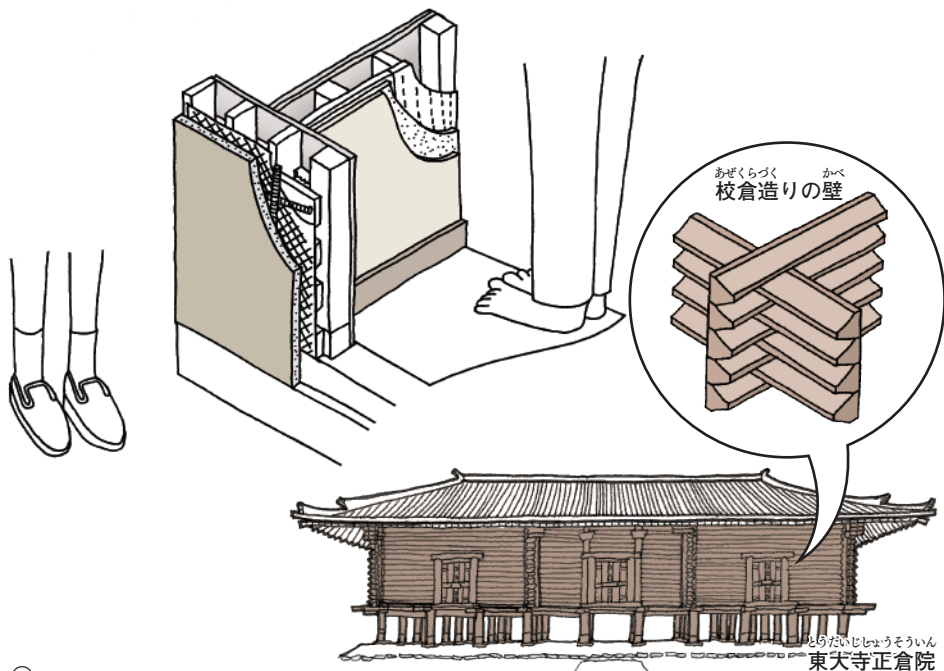
かさいちまち
(笠市町2-47)



かんがえる

自分の家の**柱**を探そう!
太さは何センチあるかな?

壁に注目しよう!



しる

壁には土、漆喰、木、レンガ、石、コンクリート、タイルのほか鉄やアルミなどの金属、ガラスなどいろいろな材料が使われています。木造のケンチクが多い日本では、柱と柱の間を埋めるように土や漆喰、木などで壁がつくられてきました。木は湿度によって大きさが少し変わるので、この性質を利用して自然に空気を通すことができる校倉造りと呼ばれる壁があります。奈良の東大寺正倉院は、この壁のおかげで千年以上も前の宝物をきれいな状態で残すことができました。レンガは、外国では古代文明の時代から使われてきた材料ですが、日本では明治時代になって使われるようになりました。金沢21世紀美術館のようなガラスの壁には中と外を分ける役割はありますが、ケンチクを支える役割はありません。



みる

～かなざわケンチク探検～

石川県立歴史博物館は、元々兵器庫だったレンガ壁のケンチク3棟でできています。明治時代に建てられたものと大正時代に建てられたものがあり、少し違うところがあります。金沢21世紀美術館は、妹島和世さんと西沢立衛さんが共同で設計した美術館です。円形のまわりをガラスが囲っています。



いしかわけんりつれきしはくぶつかん
石川県立歴史博物館

(出羽町3-1)



かなざわ せいふじのつかん
金沢21世紀美術館

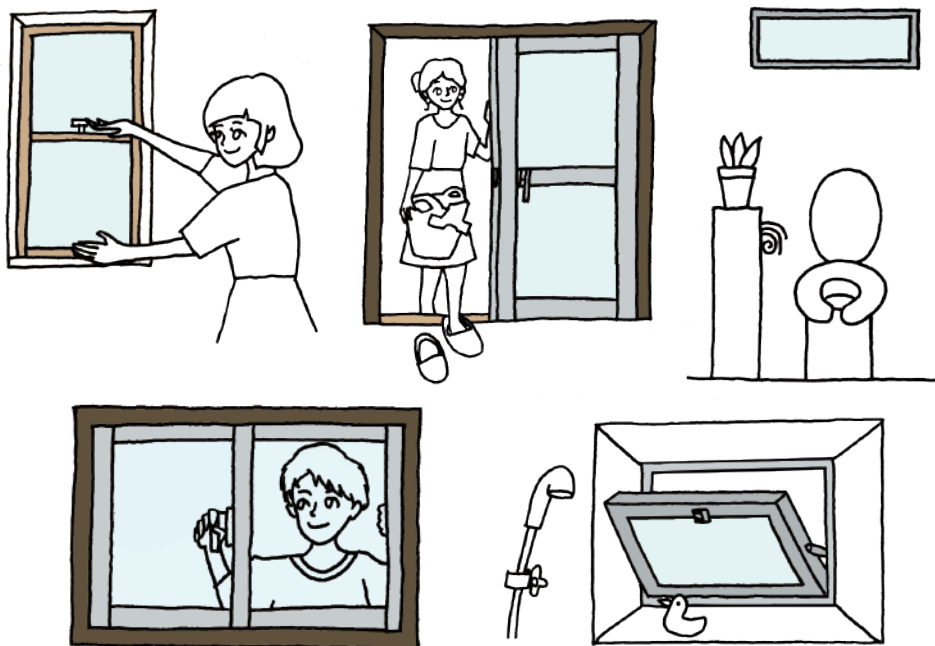
(広坂1-2-1)



かんがえる

今と昔の壁の違いはなんだろう？

窓や出入口に注目しよう!



大昔の窓は、壁にあけた穴に木や草でフタをしたようなものだったの
で、閉じていると中は暗く、風も通りませんでした。日本では和紙を張っ
た障子窓ができると閉じていても少し明るいようになり、ガラス窓や網
戸ができると閉じたままでも光や風が入るようになりました。窓には、
戸を左右や上下に移動するものや外側や内側に開くものがあり、形や大
きさもいろいろです。出入口は玄関など外に面するものや部屋と部屋の
境にもあります。外に面する出入口はどろぼうが入ってこないよう、厳
重な鍵の付いた扉が付けられます。昔ながらの町家には、前面をシャッ
ターのように全開できる板戸や玄関にくぐり戸の付いた大きな木の扉
が付いていたり、正面の窓にきれいな格子が付くものもあります。



～かなざわケンテック探検～

金澤町家情報館は、元はお米屋さんの町家でしたが、中
身は現代生活に合ったモデルハウスに改造されていま
す。今でも昔ながらの家の窓や出入口の様子を見ることが
できます。金沢くらしの博物館は、元は学校の校舎で
した。尖った塔が立っている特徴的な建物で、玄関や窓
は洋風です。



かなざわまちやせいほうかん
金澤町家情報館

(茨木町55)



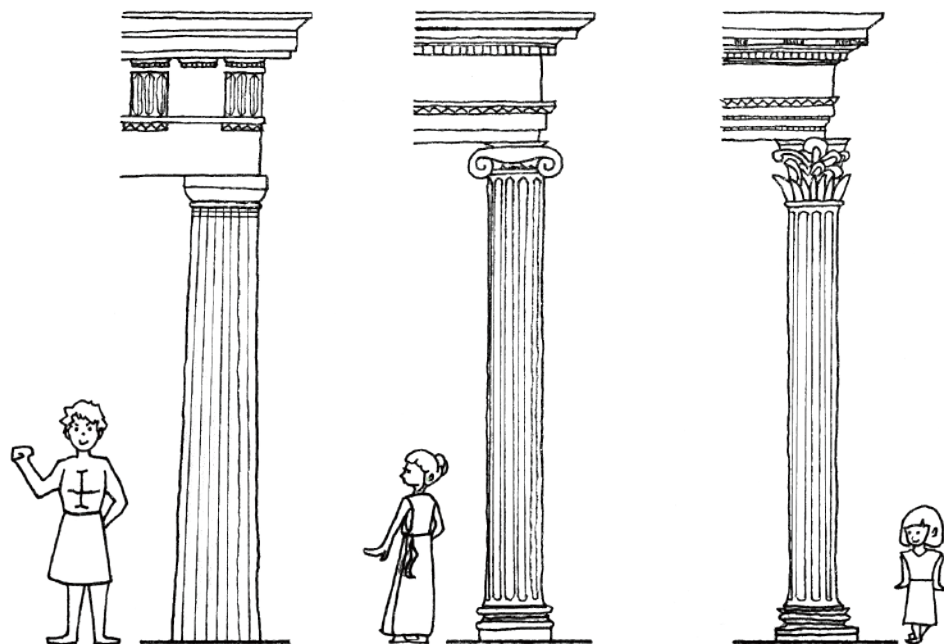
かなざわ はくぶつかん
金沢くらしの博物館

(飛梅町3-31)



どのような窓や出入口が
あったらいいと思う？

かたちに注目しよう!



しる

ケンチャは必要な部分が集まって、全体をかたちづくり、その美しさや個性を生み出しています。屋根はかたちや大きさ、材料の違いによって美しさや存在感を最も感じさせる部分です。柱には上部を彫刻で飾られたもの、全体に模様が刻まれたものや材料の特徴を生かしたものなどがあります。古代ギリシャの神殿の円柱にはエンタシスと呼ばれるゆるやかなふくらみがあり、同じデザインを奈良の法隆寺の柱にも見ることができます。壁はヒトの顔のような部分で、材料や表面の仕上げを変えることで個性が出てきます。窓や出入口は壁に付いていても目立つので、その位置やかたち、数や大きさによってケンチャの見え方が大きく変わります。



みる

～かなざわケンチャ探検～

金沢城は、城下町の中心で今でもまちのシンボルになっています。金沢城の屋根は木の屋根に鉛の板を張った鉛瓦です。また、壁は、なまこ壁と呼ばれる四角形が連続したデザインになっています。金沢海みらい図書館は、壁に並んだ丸い窓が特徴の図書館です。その数はおよそ6,000個もあり、それぞれの大きさやガラスの種類が違います。



金沢城
(丸の内)



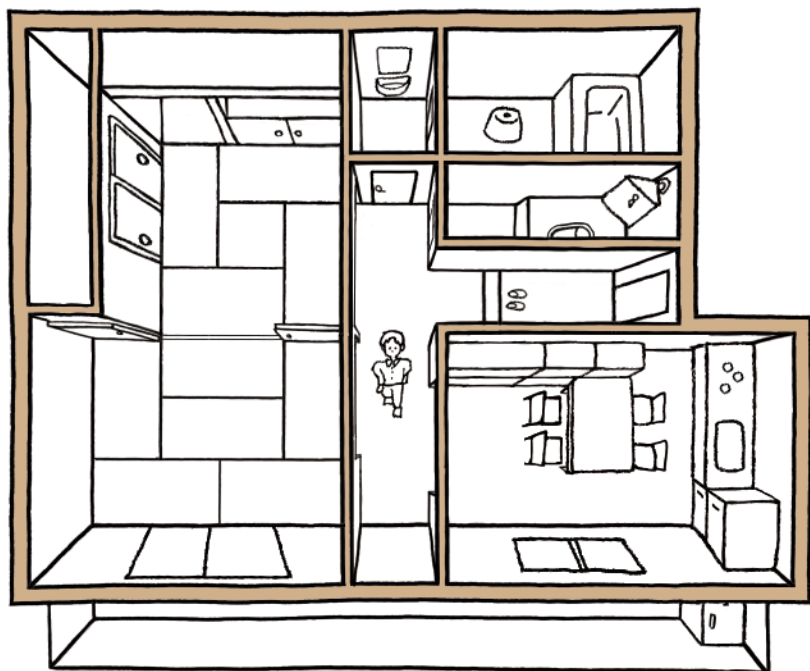
金沢海みらい図書館
(寺中町イ1-1)



かんがえる

普段目になっているケンチャで
気になるかたちのものはないかな？

部屋のつながりに 注目しよう!



しる

みなさんの家の様子を思い出してください。家の中には居間、食堂、台所、風呂、トイレ、子ども部屋、寝室、物置などいろいろな部屋があると
思います。このような部屋のつながりや並び方を間取りと呼びます。間
取りでは、暮らしやすさを考えることがとても大切です。例えば、居間
は家族の集まる場所なので広くて陽当りのよい場所がふさわしく、
台所と食堂は隣同士の方が料理を運びやすくなります。家だけでなく
いろいろな使われ方をするケンチクには、それぞれふさわしい間取り
があります。しっかりと考えられた間取りは、心地よさがあります。ケ
ンチクの間取りを考えることはそのかたちを考えることと同じくらい
大切なことです。



みる

～かなざわケンチク探検～

成巽閣は、江戸時代に加賀藩主のお殿様のお母さんの
ために建てた御殿の一部です。畳を敷いた多くの部屋
があります。部屋を仕切るふすまを開けると、部屋同士
がつながって大きな部屋になります。国立工芸館は、日
本海側にはじめてできた国立の美術館です。別の場所
にあった明治時代に軍隊が使っていたケンチクが現在
の場所に移されました。それぞれ出入口を中心に左右
対称の間取りになっています。



成巽閣
(兼六町1-2)



国立工芸館
(出羽町3-2)



かんがえる

間取りを考えるとき

一番大事にしたいなと思うことは何かな？

まわり^{ちゅう もく}に注目しよう!



しる

ケンチクをつくるときは、ケンチクだけではなく、そのまわり^{かんが}を考えることも大切です。例えば、木や花を植えて庭をつくるとケンチクやまちが美しく見えるようになります。ヒトが生活するケンチク^{あつ}が集まってまちはできています。ヒトそれぞれに考え方がるので、つくられるケンチク^{かんが}の大きさやかたち、材料や色は異なります。でも、だからといってみんなが好きなケンチク^すをつくってしまうと、まちにまとまりがなく、美しくないまちになってしまいます。そのため、ケンチクをつくる時には守らなければならないルールがあります。金沢市は、全国で初めてまちの景観を守る条例をつくり、みんなでそのルールをしっかりと守ってきたので、全国に誇る現在の美しいまちの姿があります。

～かなざわケンチク探検～



みる

鈴木大拙館^{すずき だいせつ かん}は、建築家の谷口吉生^{けん ちく か たに ぐち よし お}さんが設計^{せつ けい}しました。ケンチク^{たか ひく}の高さを低くしてあるので、まわり^{おお}にある多くの樹木や大きな水鏡^{じゅ もく おお みず かがみ}の庭が、ケンチク^{うつく み}を美しく見せています。長町武家屋敷跡^{なが まち ぶ け や しき あと}は、江戸時代に武士が住んでいたまちです。現在でも土堀で囲われた建物が並び、そのまわり^{おほ き う}には多くの木が植えられていて、まちなかですが静かで落ち着いた様子^{しず かつ よう す み}を見せています。



すずきだいせつかん
鈴木大拙館
ほんだまち
(本多町3-4-20)



ながまちぶ け やしきあと
長町武家屋敷跡
ながまち
(長町1～3丁目)



かんがえる

まわりのことを考えて守らなければならないルールにはどんなことがあると思う?

金沢のまちはケンチクの宝箱 って、どういうこと？



金沢は江戸時代につくられた城下町をもとに、現代までまちの個性を大きく失うことなく、時代に合わせてまちがつくられてきました。幸いなことに金沢は戦災や大きな災害を受けることがなく、市民が大切にまちを守ってきたので、今でもみなさんは江戸時代から現代までのいろいろなケンチクを見ることができます。城下町の中心だった金沢城、お寺や神社、武家屋敷、町家など江戸時代のケンチクや明治時代の外国の文化を取り入れてつくられたケンチク、そして高層ビルや世界的に有名な建築家が設計した美術館や図書館など現代のケンチクがあります。このことが、金沢をケンチクの宝箱と呼ぶ理由です。私たちは、この世界に誇る金沢の宝をこれからも大切にしていかなければなりません。



～かなざわケンチク探検～

宝泉寺は、卯辰山の中ほどにあるお寺ですが、境内からはいろいろなケンチクが建っている現在の金沢のまちの様子を見ることができます。



宝泉寺境内からの眺め

(子来町57)



金沢で一番のお宝ケンチクは何だと思う？
その理由は？

きみが面白いと思う^{おも}ケンチク^{しろ}を
^{かんが}考えてみよう!

① どのように使われる^{つか}ケンチクなの?

② どこにつくるの? (まちなか、^{やま}山の上、^{うみ}海の側、^{もり}森の中…)

③ 何を使ってつくる? (^な木、^{いし}石、レンガ、コンクリート、^{てっこつ}鉄骨…)

④ かたちや色は? (^{いろ}屋根、壁、窓…)

⑤ あったら面白いと思う^{おも}ケンチク^{しろ}の絵^えを自由^{じゆう}に描^かいてみよう

たに ぐち よし ろう たに ぐち よし お き ねん
谷口吉郎・谷口吉生記念
かな ざわ けん ちく かん
金沢建築館



みる



©北嶋俊治

てらまち
(寺町5-1-18)



しる

たに ぐち よし ろう よし お き ねん かなざわけんちくかん れい わ がんねん がつ にち
谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館は、令和元年7月26日にオープ
ンした**ケンチク**のミュージアムです。金沢は、江戸時代から現代
までのいろいろな時代の**ケンチク**が建ち並んでいるので、金沢か
ら**ケンチク**の様々なことを広く発信していくためにつくられま
した。建物は、日本を代表する建築家の一人で金沢市名誉市民第
一号の谷口吉郎さんが暮らした家の跡地に、吉郎さんの長男で世
界的に有名な建築家谷口吉生さんの設計でつくられました。

かん ない たに ぐち よし ろう だいひょうてき げい
館内には、谷口吉郎さんの代表的な**ケンチク**のひとつである迎
賓館赤坂離宮和風別館游心亭(東京都港区)の広間と茶室を実物
大で再現してあり、**ケンチク**やまちをテーマにした展覧会やイベ
ントを開催しています。

索引

- 1 ケンチク^{なん}って何なの? p1
- 2 ケンチク^{つく}はどのように造られている? p3
- 3 屋根^{や ね}に注目^{ちゅうもく}しよう! p5
- 4 柱^{はしら}に注目^{ちゅうもく}しよう! p7
- 5 壁^{かべ}に注目^{ちゅうもく}しよう! p9
- 6 窓^{まど}や出入口^{で いり ぐち}に注目^{ちゅうもく}しよう! p11
- 7 かたち^{ちゅうもく}に注目^{ちゅうもく}しよう! p13
- 8 部屋^{へ や}のつながり^{ちゅうもく}に注目^{ちゅうもく}しよう! p15
- 9 まわり^{ちゅうもく}に注目^{ちゅうもく}しよう! p17
- 10 金沢^{かなざわ}のまちはケンチクの宝箱^{たから ばこ}ってどういうこと? p19
- 11 きみが面白い^{おも しろ}と思うケンチク^{おも}を考えてみよう! p21

建 築 の 本

2020(令和2)年 9月1日発行

発行者:金沢市都市政策局企画調整課
協力:谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館

〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号
TEL(076)220-2031

大阪の本

